

日本語版への序文

本書の日本語版をつくろうという考えは、単に日本の学生たちに新たな水文学の包括的な教科書が必要であるという認識だけから生じたわけではなく、著者と訳者の間の長年にわたる連携関係からごく自然に生まれたものである。このはじまりは1980年代中頃に杉田教授がコーネル大学でポスドクとして働き出した時にまでさかのぼれ、その最初の種がまかれたのが第1回 ISLSCP (International Satellite Land Surface Climatology Project) 野外観測計画に際して行われた、カンザス州のプレーリー地域での長時間の集中観測中だったのは疑いない。翻訳作業そのものは、私が2005~2007年の間に筑波大学に滞在した際に行われたので、訳者との間で日々のやり取りを行うことができた。本書のさまざまな部分についての多くの議論から、私が本文中で表現しようとした本質的な部分のみだけでなく、正確なニュアンスも彼がとらえていたことは疑いない。

Wilfried Brutsaert

Tsukuba, Fall 2007